

偉大なる巨匠ラザレフ、待望の再登場!

郷愁のロシア音楽
～グラスノフ&ボロディン

2018

11/17(土)・11/18(日)

京都コンサートホール

京都市営地下鉄烏丸線「北山」駅下車、出口1・3番から南へ徒歩約5分
午後2時30分開演(午後1時30分開場)

Sat, November 17, 2018 / 2:30PM

Sun, November 18, 2018 / 2:30PM

Kyoto Concert Hall

©伊藤葉々子

©山口敦

京都市交響楽団

第629回 定期演奏会

The 629th Subscription Concert of the Kyoto Symphony Orchestra

開演前(午後2時ごろから)は
指揮者による「プレトーク」でお楽しみください。
「プレトーク」はホール・ステージ上に開催します。

指揮 **アレクサンドル・ラザレフ**

Conductor : Alexander Lazarev

グラスノフ：バレエ音楽「四季」op.67

ボロディン：交響曲第2番ロ短調

Glazunov : "The Seasons" ballet music op.67

Borodin : Symphony No.2 in B minor

入場料 **S ¥5,000 A ¥4,500 B ¥3,500 P ¥2,000** (舞台後方席)

当日残席がある場合のみ発売 ▶ 学生券&後半券 **S ¥2,000 A ¥1,500 B ¥1,000**

※学生券は開演1時間前から(学生証をご提示ください)、後半券は開演後から休憩終了(後半開始)まで発売(学生券は、席種は選べますが、座席指定はできません)。

◆1歳以上未就学のお子様は「託児ルーム」(有料・要予約)をご利用ください。

(お子様お1人につき1,000円/2018年11月9日までに京響075-711-3110へお申し込みください)

◆10枚以上のチケットお申し込みには団体割引(10%OFF)があります。

京響 (075-711-3110) までお問い合わせください。

プレイガイド(電話予約)

- 京都コンサートホール… (075) 711-3231 ● ロームシアター京都… (075) 746-3201
- 24時間オンラインチケット購入 <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>
- チケットぴあ…………… (0570) 02-9999 Pコード349-202
- ローソンチケット………… (0570) 000-407 Lコード58097

お問い合わせ

京都市交響楽団 (075) 711-3110 <https://www.kyoto-symphony.jp/>

京都コンサートホール (075) 711-3231 <https://www.kyotoconcerthall.org/>

©未就学のお子様のご入場はお断りいたします。 ©都合により曲目、出演者等が変更となる場合がございます。



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都市



協賛：ローム株式会社

協力：株式会社ドルチェ楽器

後援：(株)エフエム京都

発行：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

美しいひびき、感動にみちた
音楽との出会いをお届けします。

Rohm Music
Foundation
ロームミュージックファンデーション

ROHM
SEMICONDUCTOR

京都市交響楽団 第629回定期演奏会

The 629th Subscription Concert of the Kyoto Symphony Orchestra

日本フィル桂冠指揮者兼芸術顧問で、ロシアを代表する世界最強の指揮者アレクサンドル・ラザレフが、2012年に続き再び京響の指揮台に戻ってくる！今回はグラスノフの代表作で、極寒の冬から始まり実り豊かな秋で終わるロシアの四季を描いたバレエ音楽と、勇壮な主題と郷愁を誘う旋律に満ちたロシア国民楽派最高の交響曲、ボロディンの大作で、ロシア音楽の真髄をお贈りします。

指揮

アレクサンドル・ラザレフ

Conductor : Alexander Lazarev



©山口敦

ロシアを代表する指揮者の一人。2008年9月から8年間にわたり日本フィルの首席指揮者を務め、2016年9月に桂冠指揮者兼芸術顧問に就任。首席指揮者就任とともに3年に渡る「プロコフィエフ交響曲全曲演奏プロジェクト」を開始し、1秒たりとも無駄にしない徹底したリハーサルで演奏水準を引き上げ、「ラザレフ効果」と評される。2011年9月から5年の契約を延長し、「ラザレフが刻むロシアの魂」をスタート。2013年6月に最終章を迎えた「Season I ラフマニノフ」では、初回から作曲家の人間性にまで深く迫っていく解釈と、妥協なくその解釈を表現させる演奏で会場を熱狂させ、歴史的な作品の評価までもを变える名演となり、センセーショナルなまでの高評価を得た。続く「Season II スクリャービン」では、日本人には馴染みの薄いスクリャービンの独特な色彩的・神秘的な世界を分かりやすくダイナミックに提示。2014/2015シーズンからは2年にわたり「Season III ショスタコーヴィチ」を展開。さまざまな音圧と作曲家が憑依したような演奏が話題となった。モスクワ音楽院でL.ギンズブルグに師事、同音楽院を首席で卒業。1971年にソ連国際指揮者コンクールで第1位、翌年にはベルリンでのカラヤン指揮者コンクールで第1位とゴールド・メダルを受賞。1987年から1995年にかけてボリショイ劇場の首席指揮者兼芸術監督を務める。両タイトルを一人の指揮者が兼任したのは30年ぶり。この間、東京（1989年）、ミラノ・スカラ座（1989年）、エディンバラ音楽祭（1990、91年）、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場（1991年）などの演奏旅行では前例のないプログラムを実行し高い評価を得ている。グリーンカ《イワン・スサーニン》、チャイコフスキー《オルレアン少女》、リムスキー＝コルサコフ《ムラダ》など、同歌劇場における秀作は映像化されている。さらにボリショイ管とは、ラフマニノフ《交響曲第2番》やショスタコーヴィチ《交響曲第8番》などのロシアの交響曲を含む数々の録音をEratoから出しており、大絶賛をあげている。数多くのCDをリリースしており、ボリショイ管とはエラート、メロディア、ヴァージン・クラシックスで、BBC響、ロンドン・フィル、ロイヤル・スコッティッシュ・ナショナル管等との録音がある。日本フィルとの録音も多く、最近ではオクタヴィア・レコードより『ラフマニノフ：交響曲全集』、ショスタコーヴィチの交響曲『第4番』、『第11番』、『第8番』、『第7番《レニングラード》』、『第6番、第9番』に続き、『第5番』が2018年4月に発売されている。



©伊藤菜々子

京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。2008年4月第12代常任指揮者に広上淳一が就任。2014年4月からは常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。2015年広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月には広上淳一の指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年を記念して国内ツアー 6公演と京都市内各所で「ふらっとコンサート」全10回を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年1月「第37回（2016年度）音楽クリティック・クラブ賞」本賞、同年3月には「第29回ミュージック・ペンクラブ音楽賞」クラシック部門「現代音楽部門賞」を受賞。2017年4月からは下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による強靱な3人指揮者体制を確立し、名実ともに文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

2018 9/22(土)から発売!

❖ 次回予告 ❖

2018 10/12(金)から発売!

特別演奏会「第九コンサート」

下野竜也、平和を謳うベートーヴェン「第九」
衝撃のシェーンベルク「ワルシャワの生き残り」とともに

日時：2018年12月27日(土) 午後7時開演
2018年12月28日(日) 午後7時開演

会場：京都コンサートホール

指揮：下野 竜也（常任首席客演指揮者） 合唱：京響コーラス

独唱：吉原 圭子（ソプラノ） 小林 由佳（メゾソプラノ）

吉田 浩之（テノール） 宮本 益光（バリトン）

曲目：シェーンベルク：ワルシャワの生き残り op.46

一語り、男声合唱と管弦楽のための（語り：宮本益光）

ベートーヴェン：交響曲第9番二短調「合唱付」 op.125

特別演奏会「ニューイヤーコンサート」

高関健のタクトが踊るワルツ&ポルカで新年を！
麗しきウィーンの調べ〜ヨハン2世&ヨーゼフ・シュトラウス名作集

日時：2019年1月13日(日) 午後2時30分開演

会場：京都コンサートホール

指揮：高関 健（常任首席客演指揮者）

合唱：京都市少年合唱団*

曲目：ヨーゼフ・シュトラウス：

ポルカ・マズルカ「おしゃべりな女」 op.144

J.シュトラウス2世：ワルツ「美しく青きドナウ」 op.314*

J.シュトラウス2世：芸術家のカドリユ op.201

J.シュトラウス2世：ワルツ「ウィーンの森の物語」 op.325 ほか



©Naoya Yamaguchi

日本語
字幕付



©伊藤菜々子

入場料 S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500

入場料 S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 P ¥2,000（舞台後方席）